

虹の海の童話集

いいんだぞうよりでっかいの

ぶん ウミニール・プラントン
え プアマリナ 2000年1月

よりかちゃんは、パパにきいてみました。

「きょうりゅうちゃんって、でっかいの。」

「そりゃあ、でっかいわ。」

パパは、よりかちゃんのことを みもしないで いいました。でも、きょうは
パパが いいところに つれていってくれるのです。

よりかちゃんのパパは、いつもいつも いそがしくて どよづびも にちよう
びもぜんぜん おやすみになりません。

だから、きょうはママも あさから ニコニコ ニコニコ。

「ねえねえ、パパよりも大きいの。」

「ああ、そりゃあ パパより ずいぶん大きいわ。」

「ねえ、じゃあさ、田中さんとこの犬より。」

「ああ、あのでっかい犬ね。もっともっと きょうりゅうのほうが なんばいも
でっかいぞ。」

パパとママと、よりかちゃん。でんしゃにのって、バスにのって、それからい
「こまで てくてくてくてくてく。」

川もあつたし、いけもあつたし、りすさんも、たぬきさんも、きつねさんもい
ました。

このあたりまでくれば、水をよごす人もいないし、くうきをよごす じどう
しゃもない。なにより、いつもみなれたビルディングなんて、どこにも みえな
くて、まあるいはつばの木が、たくさん はえています。

ずいぶん、とおい ところなのです。

「わたし、ちよっと つかれちゃった。」

よりかちゃんが そういうと、ママが やさしく いいました。

「じゃあ、そろそろ おべんとどう たべましょっわ。」

そこは、おひさまがポカポカあたる きもちのいい ばしょでした。

「ゴミが ひとつも ありません。」

そらはあおくて、どこまでいっても はいいろのくもなんて みあたりませ
ん。

「はい、パパ。おはれっわいっわ。」

パパは、よりかちゃんがおきるまえには、でかけちゃうし、かえってくるのは、すやすやねむってしまっただけから。

たまのおやすみには、グーグーねているだけで、こんなふうには三人そろってごはんを食べるのは、ほんとうにひさしぶりのことです。

それなのに、パパあんまりうれしそうじゃないな。

「ねえねえ、きょうはもうおひるだよ、おひるだよ、おひるだよ。」

おべんとうがおわって、またあるきはじめてとき、よりかちゃんはききました。

「そんなのど、ほんとうのきょうはもうおひるだよ、わかるわけないわ。」

そういって、パパはどンドンあるいていきます。

よりかちゃんは、すっかりかなしくなってしまいました。

もー。パパのばか。

しげろくすると、まえのぼつがどンドンくらくなっていきます。

「ねえ、ママ。」

よりかちゃんは、もうすっかりはぐそです。

「だいじょうぶだよ。すべし。あかるくなるわ。」

「でも、おぼけがでたら、しげろくのよー。」

「しげろくがないわね。じゃあ、パパにくっついてなれい。」

そういわれて、よりかちゃんは、パパのズボンにひっしてしがみつきました。

パパは、よりかちゃんの手をしっかりとにぎっていいました。

「ああ、よりか。」

そのこえは、とってもやさしくて、よりかちゃんは、さっきパパのばかっていったことを、すっかりわすれてしまいました。

「ねえ、パパのおてて、あったかいね。」

「そうか。きょうは、たべたからな。」

もう、まわりはまっくらで、なにかしゃべっていないと、ふあんでしかたありません。なんだか、とおくのぼつで、かびくさいどろどろぶつえんみたいなおいが、しています。

ダンブカーが たくさんいるのかな。それとも、どつぶつの なぎこえでしようか。ものすごく大きなおとが、きこえてきます。

でもパパとママが いるから ぜったい だいじょうぶ。

「そっだ。パパ きょうりゅうさんってさ いいんだぞーよりも でっかいのかなー。」

「えへえ。いいんだぞーって、なんだ。」

なんだか、びっくりしたようです。

「このあいだ、この子ね、えんそくで、どつぶつえんに いったのよ。」
ママが、よこから いいました。

「そっよ。わたし、どつぶつえんに いったの。おみみが大きくて、おはななんて こーんなに こーんなに ながいのよ。」

よりかちゃんは、大きく大きく、りょうほうの手をひろげてみせました。

「なーんだ。それってインドぞうのことか。あはははは。」

きょう、はじめてパパが わらいました。

「いいかい、よりか。きょうりゅうはね、インドぞうなんて ひとくちで たべちゃつぐらい でっかいんだぞー。」

せっかくパパが わらったのに、よりかちゃんは、かおをまっかつかに しています。

インドぞうの なまえを、まちがえたのが はずかしかったのです。

でも、まっくらなトンネルに あかるいひかりが さしこんできたとき、よりかちゃんは とてもいいものを見ました。

パパが、ニコニコわらっているのです。

そっなんだ。パパも きょうりゅうが大すきなんだ。

それは、とてもうれしいことでした。

「ほら、トンネルの びくちだぞー。」

よりかちゃんは、あまりの まぶしさに、めをつぶってしまいました。

そこは、あかるくて、あたたかくて、すごくひろいところでした。

こんなに、まぶしい おひさまをみたのは、はじめてのことです。

大きな大きな はっぱの、たかいたかい木が、たくさん たくさん はえています。

「ねえ、パパ。あそこにお山があるで
しょ。」

「いままでには、みたこともないような、
まるくて、でっかいお山でした。」

「あれと、きょうりゅうさんだったら
どっちが大きいの。」

「よりかちゃんが、そういつたとき、
お山がズシンと、うごきました。」

「おや、まあ。それは、ただのお山で
はありませんでした。」

「くろくて、まんまるのものが、ふた
つついていて、それが、よりかちゃ
んのことを、じっと、みつめています。
とてもやさしい、おめめでした。」

「ほら。インドゾウより、でっかいだろ。
パパが、いいました。」



虹の海の童話集

いいんだぞうよりでっかいの

ご意見は、Web版「虹の海の童話集」
<http://www.mars.dti.ne.jp/gec/fairy>
またはE-Mail
gec@mars.dti.ne.jp
まで